

【今回のテーマ】

## アップサイクルプロジェクト活動に向けて

アップサイクルはSDGsへの意識の高まりを背景に、さまざまな業界で注目されています。今回は実際に行われているアップサイクルの企業事例を紹介したいと思います。

12 つくる責任  
つかう責任



## FREITAG (フライターグ)



アップサイクルの代表と言えるのが「FREITAG (フライターグ)」です。見たことがある人も多いのではないのでしょうか。

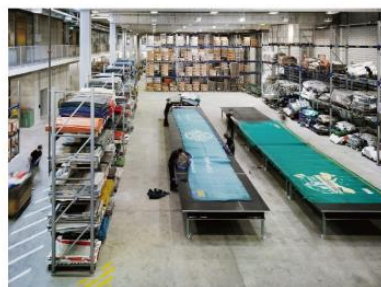
中古のトラックの幌 (ターポリン) と、捨てられた自転車のチューブとシートベルトを使った自転車用のメッセンジャーバッグに始まり、そのビジネスは世界規模で成功している。全てが一点物でハンドメイドです。

トラックから外されたままの幌を広げてバックルやベルトなどバッグに使用しない部分を取り外す。そして洗浄。洗浄用の水はすべて貯水している雨水を使っている。自社開発した専用の巨大洗濯機に入れ洗浄作業を行い、作るバッグの型に合わせてカットデザイナーが幌をカットする。カットされた幌を縫製し、完成する。

大量生産・大量廃棄によって生み出され続けている廃棄物を、デザインやクリエイティブな思考をもってアップサイクルすることで、よりポジティブにモノの循環を見直すきっかけとなることが期待されています。



材料となるトラックの幌



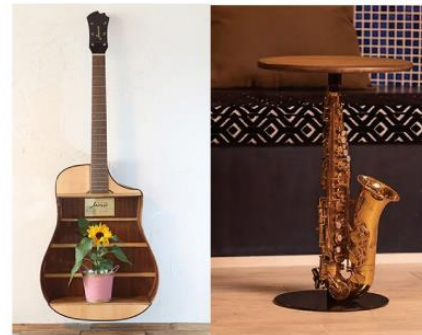
バックルなど不要な部分を取り外す作業



デザイナーがバッグの形に合わせてカットする

『もったいない』から始まるアップサイクルで新たな価値

## 島村楽器株式会社



音楽教室や楽器販売などの事業を展開する島村楽器株式会社では、「楽器アップサイクルプロジェクト」を行っています。お客様や小・中・高等学校から譲り受けた廃棄楽器、耐用年数を過ぎた部品を集め、提携団体によってスタンドライトやテーブルなどのインテリア製品にアップサイクルしています。

完成したインテリア製品は島村楽器株式会社にて販売され、諸経費を引いた売り上げが、楽器演奏の機会を得にくい子どもたちへ寄付されます。廃棄楽器や部品をアップサイクルすることによって、環境負荷の軽減だけでなく、音楽教育の環境整の向上にも繋がっています。

色々なアイデアのアップサイクル商品が生み出されていますね。本来捨てるはずの製品に新たな価値を与え見事に再生しています。みんなも興味のあるアップサイクルについて調べてみましょう。担任の先生から課題プリント (わたしが見つけたアップサイクル) を配布してもらいますので、ゴールデンウィーク期間に取り組んでください。締め切りは5月7日 (火) です。

## オイシックス・ラ・大地株式会社



食品宅配サービスで有名な「オイシックス・ラ・大地株式会社」では、フードロスの削減を目指す新ブランド「Upcycle by Oisix」をスタートしました。そのなかで発売されている商品の1つが、「ここも食べられるシリーズ」です。商品を製造する際に廃棄されていた野菜と果物の皮や芯を、アップサイクルしてチップスにしています。上の写真はりんごの芯チップス。りんごの加工現場で未活用だった国産りんごの芯をザクッと揚げりんごのやさしい甘さと香ばしさが感じられるフルーツチップスです。

現在Upcycle by Oisixでは、「ここも食べられるシリーズ」以外にも、ジャムやお惣菜などさまざまなアップサイクル商品を生み出しています。